桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

笑顔がはじけた！ 感動をありがとう！

学級・学年・群の団結は桜の誇り

13日(月)、皆さんの思いが天に通じ、心配されていた天候も回復し、多くのご来賓や保護者の参観をいただき実施した大運動会、「桜中健在」を存分にアピールし、「桜中旋風」が大いに吹き荒れた一日となりました。

生徒たちは、各係の役割や自ら果たさなければならない責任を、自分でじっくりと考えながら行動に移し、精一杯活動(躍動)してくれました。

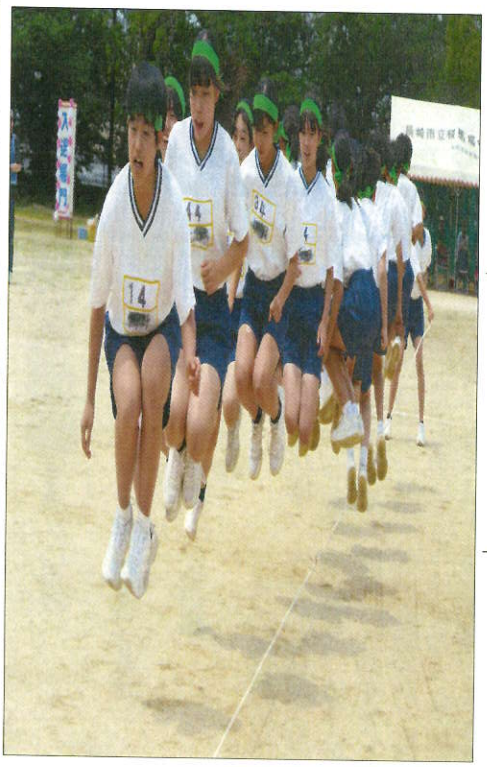
きびきびとした、しかも凛々しい演技(競技)に大きな拍手が送られていました。

最近では、泥だらけ、傷だらけは敬遠されがちですが、若者はやはり、こんな経験を重ねながら、たくましく成長するのかもしれません。

さあ、皆さん、大運動会の取組を、今後の学級づくりや学校生活・家庭生活に活かそう。

大運動会前は、毎日練習が続いたため、ご家庭での洗濯が大変だったことと思います。

ご協力ありがとうございました。



長縄跳び、力を合わせて頑張った

大運動会で学んだことを 学校生活・家庭生活にしっかりと活かそう

生徒の感想

○今年は中学校で最後の大運動会でした。私は運動が好きじゃないけど、運動が苦手な私でも楽しく運動会をすることができました。今年は実行委員だったので初めての仕事がたくさんあって大変でした。今年一番印象に残った競技は部活動対抗リレー、今年から新たに加わった競技です。私はオーケストラ部なので、混合のチームで走りました。みんなそれぞれの部活が気合いが入っていてどの部活もそれぞれ個性が出ていてとても面白かったです。また、長縄では自分のクラスは4位だったけど、本番ではみんなの息がひとつにそろって、今までの記録を超えたので、とても嬉しかったです。長縄の練習では、始め息がそろっていなくってもめたりしたけど、そのたびに「こうしたほうがいい」といろんな案が出ていて良かったです。いろんな人が「ドンマイ！」とか「足上げて！」とかポジティブな言葉が出ていて、みんなの心がひとつになったと思いました。応援では、応援団の人たちが中心となって後輩たちを引っ張っていました。できていないところなどをわかりやすいようにみんなに指導していてとてもリーダーシップがとれていました。後輩の人たちも応援団の言葉やできていないところをしっかりと認めて楽しそうに応援していて良かったです。賞を取ることはできなかったけど、黄群のみんなが楽しそうに応援していたので良かったと思いました。中学校で最後の大運動会、一番楽しめたと思います。次の合唱コンクールも全力で頑張りたいと思いました。

3年3組

○中学生になって初めての大運動会だったので緊張していたけど、先輩の応援や周りのみんなが全力でやっているのを見て、だんだんと緊張がなくなっていきました。自分の目標である「応援を頑張る」は個人的によくできていたと思います。もう一つの目標「チャンス競技で一位になる」はだめだったけど、最後まで走り抜いたので後悔はないです。心に残ったのは3年生が全力で楽しんでいたことです。3年生は中学校生活最後の大運動会なので全力で楽しもうという気持ちが伝わってきました。いい成績をとれてもとれなくても、ベンチに戻ると応援をしていたり、他の人を盛り上げようとする姿がとても格好良かったです。自分も2年後もそういうかっこいい姿を1年生に見せたいと思いました。とても楽しい1日でした。

1年3組

○「一丸となる」には、「みんなで」楽しんで、「みんなで」真剣に取り組むという大切な意味があることや、メリハリや集団行動の楽しさを学んだ。大運動会は、勝ち負けではなく、楽しむか楽しまないかが大切だと知った。大運動会を通して特に成長したと思うのは、集団での気配り。行進で気配りをすることによって、より美しく見えることを知った。気配りを大切にして行進に取り組んだので「気配りをする」大切さを学んで成長できた。

2年2組

閉会式の校歌も感動！

さみどりの丘にひかりみち　萌えいずる　萌えいずる
わかき生命の伸びゆかむ　高く高く　清らに

あらたよののぞみたたえすむ　たまのうら　たまのうら
まみにゆれつつ地の塩と　生きむ　生きむ我らぞ

歌がつくられたのは、おそらく1948年前後で、作詞は教諭としてお勤めだった、平野　博氏、作曲は松竹ユキ氏。

この校歌の歌詞について、平野氏が1996年にお書きになった文書があったので、それを基に解説を加えてみました。

1番

○さみどりの丘に光満ち
萌えいずる　若き命

今のように人家が建て混んでなく、早春には、東南にそびえる彦山から、裏山の城の古址あたりまで、一面に若草に満ちていて、「光満ち　萌えいずる　若き命」を体で実感できたものでした。

2番

○あらたよの理想　たたえ澄む　瓊の浦

当時、今の婦人会館寄りの敷地に、師範時代の博物教室・高女の家庭科教室であった二階建ての別棟があり、その側の太いポプラの木の枝越しに、長崎港が見えていました。瓊の浦は長崎港の別称です。その歴史を秘め、新しい理想を「讃え、湛え澄む」かにも見える。輝く水面の底に、私は唯一の窓であった出島を、シーボルトを、晋作を、龍馬を、岩崎を見ました。

○まみ
目もと・まなざし

○地の塩

マタイ福音書中のイエスキリストの教え（「汝らは地の塩なり。汝らは世の光なり」）「神を信じるものは、腐敗を防ぐ塩のように、社会・人心の純化の模範であれとの意味。」（大辞林　第3版　三省堂）」

古い歴史を秘め、新しい時代の理想を讃え澄んでいるような瓊の浦を眺めつつ、理想を目もとに、いつも輝かしながらこの苦しい世の中を、バイブルにいう「地の塩　世の光」として生きていこうではないか。我が友たちよ。

なお、平野博氏は、文書の中でこのようにも述べています。

「お願いしたいのは、声変わりの男子も歌えるように、2部か3部かの合唱にしてほしいことです。そしたら、作曲でこうなった歌詞の繰り返しもなくなると思うのですが。」

なぜ勉強するのか？

十年近く前、高校入試の面接練習をしていたとき、ある生徒に「勉強はなぜするのですか？」と質問してみた。

「勉強する習慣そのものが役に立つからです。」という答えに感心した。

太宰治が同じようなことを言っている。「学問なんて、習ったことを全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底にひとつかみの砂金が残っているのだ。これだ。これが尊いのだ。」

中学生時代は、どの勉強も大切な訓練をしているのだ。

勉強は、砂金を探す穴掘りかもしれない。深い穴を掘ろうと思えば、入り口を広く掘り始めた方がよい。

そのうち、ここぞというところが見つかったら一気に掘り下げればよい。

勉強は「自分の砂金」探しではないだろうか。

教育相談を実施します

1　目的
(1)一人一人の子どもの人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、豊かな心の育成を目指す。
(2)子どものもつ悩みや問題の解決・解消・改善を図るために、個別の支援を行い、子どもの状況に応じた適切な教育活動の推進を目指す。
(3)将来の進路に対する興味・関心を高め、自己の将来について考えを深める機会とする。

2　基本姿勢
(1)向き合う
子どもと触れ合い、思いや願いを知る。子どもの微妙な心の様子やその変化を観察する。
(2)受け止める
子どもの思いや願いを受容的・共感的に聴き、信頼関係を築く。
(3)つなぐ
個々の子どもの継続的な支援を行い、寄り添い見守る。
(4)ひらく
個人や学級の課題について、学級担任が1人で抱え込まず、全教職員が課題を共有し、共通理解の元、問題の解決に取り組む。

3　日程
5月21日(火)～27日(月)の5日間
(1年生は29日(水)も実施)

あとがき
1年生は入学して約2月。
制服が似合ってきた。
身も心も伸び盛り。
今日も学校には挨拶が響き渡っています。

5月20日(月)は
「尿検査」です。
昨年度は80名を超える未提出者がおり、その後の対応に苦慮したところです。ご理解・ご協力をお願いします。